



七宝柄から派生させた星（光）で「輝」を作成。光を3つ作ることで「輝」を表します。

渡り鳥であるベニアジサシは「利用者及び職員」を指し、それぞれが、宝以上に価値のある「縁」や「人とのつながり」を求め、力強く目標に向かっていく姿を表現。すずらんの花を上配置し目標に向かうことで「幸福が訪れる」ことも同時に表現しました。

七宝（しっぽう）とは仏教の教典に出てくる七種の宝のことで、金、銀、瑠璃【るり（青い宝石）】、玻璃【はり（水晶）】、しゃこ貝、珊瑚、瑪瑙【めのう（縞状の鉱物）】であると言われてます。

七宝（しっぽう）柄の意味とは
 円形が永遠に連鎖し繋がるこの柄に、円満、調和、ご縁などの願いが込められた縁起の良い柄です。
 また人の御縁や繋がりは、七宝と同等の価値がある事を示している柄でもあります。